

2 学力向上アクションプランの具体例

横浜市立旭小学校

平成31年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力



(2) 中期取組目標

中期取組目標

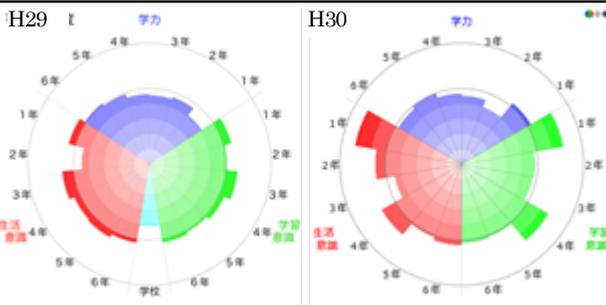
《安心》《つながり》を大切にし、児童が自分の思いや願いを実現させることができる学校をつくります。

- ・児童が自己有用感をもって安心して自分らしさを発揮できるよう、チームで一人ひとりをていねいにみとり支援します。
- ・防犯・防災や、児童の安全を守る視点から危機管理体制を整えるとともに、児童の安全に対する意識を高めます。
- ・思考力、表現力の育成に力を入れ、「話し合い活動」など児童同士がつながり、深め合う学習を大切にします。
- ・児童が自らの成長を自覚しながら規範意識を高めていくことができるよう、異学年での交流機会を多く設定します。
- ・保護者と学校とがより密接につながり、楽しく協働しながら子どもを育てていけるようなシステムづくりを進めます。

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①各教科で身に付けたい力を明確にして授業を組み立てることで、「分かる」授業づくりを進めるとともに、子どもの「つまづき」に対応できるよう指導と評価の一体化を図る。 ②自他の思いや考えを交流する場を大切にし、児童が自ら表現し考えを深めたり広げたりできるよう授業改善を図る。
担当	教務部

2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

全体的には、市平均と同等かやや下回る学力である。「授業が分かる」と答えている児童の割合は全学年を通して市平均と同等か上回っている。「授業では、自分の考えを公表している」と答えた児童の割合は、6学年中5学年で市平均を上回っている。本校が重点研究で取り組んできた「豊かなかわりの中で、自己を生き生きと表現して学び合える子」の育成が実を結んできたものと考え。また、「自分にはよいところがある」と答えた児童の割合も、6学年中5学年で市平均を上回っている。しかしながら、「勉強が好き」と答えた児童の割合は市平均をやや下回り、かつ学年が上がるにつれて減っていく傾向が見られた。これらの結果から、授業で身に付けたことが必ずしも学ぶ楽しさにつながっていない実態が明らかになった。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：全体的に市平均と同等か若干下回る。学年が上がるにつれて高まっていく傾向。
- 算数科：全体的に市平均と同等か若干下回るが、基礎または活用のどちらかが市平均を上回る学年もある。
- 社会科：全体的に市平均と同等か若干下回るが、社会科に対する意識は市平均と同等かやや高い。
- 理科：学年が上がるにつれて、「技能」「思考・表現」が向上している。

(3) 経年変化の状況と要因の分析

H27年度からH30年度までの経年変化の状況から、「勉強が好き」と答える割合が増えてきている。並行して、「学校の授業が分かる」「授業で自分の考えを公表している」と答える割合も増えている。授業が分かり、考えを伝え合う学習ができることで、勉強への意欲が高まっている様子である。引き続き、「分かる授業」「考えを伝え合う授業」づくりを進めていくことが大切と考える。

3 平成 31 年度 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質能力と具体的取組

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組	
		前期	後期
1年	思いや考えを表現する力	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども一人ひとりを細かくみとり、適切な支援をすることで、思いや考えを安心して表現できる環境をつくる。 ○学年・学級やスマフレグループの友達との交流を通して人とつながる場面を計画的に位置付ける。 	
2年	問題を発見する力 身近な事象に積極的に関わる態度	<ul style="list-style-type: none"> ○人や物との関わりを通して、自分の思いや考えを自分なりの方法で表現しようとする意欲を高める。 ○学年・学級やスマフレグループの友達との交流を通して人とつながる場面を計画的に位置付ける。 	
3年	他者と考えや思いを共有するコミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ○相手意識をもった表現の仕方について考える場を設け、適切な表現が自己理解や他者理解につながることを実感させる。 ○地域の活動に関わる場面を設定することによって興味や疑問をもち、友達と協働しながら追究していくことができるようにする。 	
4年	問題解決に向けて実行する力 主体的・積極的に人と関わろうとする姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ○自他の思いや考えの共通点や相違点を意識した話し合いをすることで、自他のよさに気付かせる。 ○地域の活動に関わる場面を設定することによって興味や疑問をもち、友達と協働しながら追究していくことができるようにする。 	
5年	伝え合うことで、自分の考えを深化させる力	<ul style="list-style-type: none"> ○自分と周りの人との関係を捉え、場や目的に応じて表現し伝え合うことができるよう、意識して指導する。 ○問題に対して試行錯誤をできるような場面を意図的に設定する。 	
6年	問題を認識する力 自己肯定感	<ul style="list-style-type: none"> ○自他を認め合いながら話し合う場を意図的・計画的に設け、自分の考えに取り入れようとする意欲を高める。 ○自ら考え学ぶことの意義や楽しさを感じることができる場面を位置つける。 	
個別支援学級	身近な事象に積極的に関わる態度 思いや考えを表現する力	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの実態に合った教材や指導方法を工夫し、学習や活動に対する子どもの意欲・関心を高める。 ○子どもの困り感に寄り添い、適切な助言をすることで、思いや考えを表現しやすい環境をつくる。 	